

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名 財団法人 神戸キリスト教女子青年会

1 事業の趣旨・目的

近年、外国人居住者の定住化に伴い外国人児童生徒の増加と外国にルーツを持つ子ども・年少者に対する日本語教育が兵庫県内でも課題となっている。学齢期の児童生徒に関しては日本語能力の有無を問わず居住地の公立学校に受け入れが行われ、入学後は教育委員会の援助・配慮の下に学校においてサポーターなどによる支援が行われて来た。だが、生活日本語にプラスされるべき教科学習のための学習言語習得は現場ではなかなか難しい実情が報告されている。それは時間的なこともさながら、日本語習得のためのノウハウの不足が原因であることが多い。また地域の日本語教室でも年少者を対象にした日本語指導、補習的な教科学習支援の活動が取り組まれ、展開されている。しかし、日常会話ができるようになった場合でも、授業になると読み書きのみならず、聞いたり話したりも十分にできない場合が見られ、学習言語能力の育成・定着が課題とされている。

一方、学齢期を過ぎた15歳から18歳までの外国人生徒の場合は公立学校への受け入れがまだまだ困難であり、受け入れが認められる場合でも厳しい入学試験・編入試験を突破しなければならないのが現状である。その際、一番大きな障害となるのがやはり学習するための日本語能力である。家族と一緒に、あるいは呼び寄せで来日した外国人生徒が、短期間でどのように日本語能力を身につけるかが緊急の課題となっている。

以上のような例、すなわち学習言語としての日本語が不十分なために学校の勉強についていけない生徒、あるいは来日直後で日本語が全然わからないが、日本の高校への進学・編入を希望している生徒を対象に、短期集中型の日本語初期指導を実施することにした。この指導は、日本語の構造の理解を核としたコミュニケーション能力、および教科が理解できる学習言語能力の育成を目指した。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
平成 22 年 6 月 14 日	神戸 YWCA	斎藤 明子 ほか4名	事業の趣旨・目的の 確認、内容検討	日本語教室運営の方針説明 と意見交換・確認、受講生の 募集方法、日程・準備の検討
平成 22 年 7 月 29 日	神戸 YWCA	斎藤 明子 ほか 5 名	日本語教室の日程・ 準備の確認	教授者・支援者の検討と確認等 日本語教室運営の検討・確認
平成 22 年 9 月 15 日	神戸 YWCA	斎藤 明子 ほか 5 名	日本語教室の内容、 運営の総括	成果や問題点、運営、今後の 展望についての意見交換



講師会および補助者講師会

3 日本語教室の開催について

回	開催日時	出席者	議題	会議の概要
1	平成 22 年 7 月 24 日	斎藤 明子 ほか 1 2 名	事業の趣旨・目的 の確認、カリキュ ラム	日本語教室運営の方 針説明・確認、 カリキュラムの確認
2	平成 22 年 7 月 28 日	斎藤 明子 ほか 2 名	クラス運営の内容	テキスト選択、授業内 容の確認
3	平成 22 年 8 月 7 日	斎藤 明子 ほか 5 名	クラス運営	実施内容の検討、
4	平成 22 年 9 月 3 日	斎藤 明子 ほか 6 名	日 本 語 教 室 の 内 容、運営の総括	成果や問題点、運営、 今後の展望について の意見交換

① 日本語教室の名称 「学校にはいるためのクラス」

② 開催場所 神戸 YWCA 学院

③ 学習目標

- ・ 日本語の構造の理解を核としたコミュニケーション能力の獲得を目指す
- ・ 学校の授業についていける日本語能力の獲得を目指す
- ・ 高校進学準備・意識付け

④ 使用した教材・リソース

- ・ 主教材・・・『みんなの日本語Ⅰ』『トピック25 みんなの日本語Ⅰ』
『中級へ行こう』
- ・ 副教材・・・『ストーリーで学ぶ漢字300』
『みんなの日本語Ⅰ 翻訳・文法解説』、各種ドリル
『JSL 中学高校のための教科につなげる学習語彙・漢字ドリル』
他に 英語、および数学の問題集
- ・ 教具・・・絵カード、日本地図、辞書など
- ・ その他・・・募集チラシ（3言語）

⑤ 受講者の募集方法

- ・ チラシ 資料参照
日本語ボランティア教室、兵庫県および神戸市、西宮市国際交流教会
過去の受講者が属していた中学校、高等学校、
教育委員会 など、関係団体に周知。
- ・ 神戸新聞 関連記事の掲載
- ・ 各団体のメーリングリスト投稿

受講者の総数 12 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

(中国 10人 ブラジル 1人 韓国 1人)

⑥ 開催時間数(回数) 60 時間 (全 15 回)

⑦ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語（人）	教授者・補助者人数	内容
①	8月2日（月） 9：30 ～15：00	4時間	10人	中国・中国語（10人） 韓国・韓国語（1人）	教授者3人 補助者3人	日本語・漢字 学習 英語学習
②	8月3日（火） 9：30 ～15：00	4時間	10人	中国・中国語（9人） 韓国・韓国語（1人）	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 作文
③	8月4日（水） 9：30 ～15：00	4時間	11人	中国・中国語（9人） ブラジル・ポルトガル 語（1人）韓国・韓国 語（1人）	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 英語学習
④	8月5日（木） 9：30 ～15：00	4時間	11人	中国・中国語（9人） ブラジル・ポルトガル 語（1人）・韓国・韓国 語（1人）	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 作文
⑤	8月6日（金） 9：30 ～15：00	4時間	12人	中国・中国語（10人） ブラジル・ポルトガル 語（1人）・韓国・韓国 語（1人）	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 数学学習
⑥	8月9日（月） 9：30 ～15：00	4時間	11人	中国・中国語（10人） ブラジル・韓国・韓国 語（1人）	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 作文
⑦	8月10日（火） 9：30 ～15：00	4時間	11人	中国・中国語（9人） ブラジル・ポルトガル 語（1人）・韓国・韓国 語（1人）	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 英語学習
⑧	8月11日（水） 9：30 ～15：00	4時間	11人	中国・中国語（9人） ブラジル・ポルトガル 語（1人）・韓国・韓国 語（1人）	教授者3人 補助者5人	日本語・漢字 学習 作文
⑨	8月12日（木） 9：30 ～15：00	4時間	11人	中国・中国語（10人） 韓国・韓国語（1人）	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 英語学習

⑩	8月13日(金) 9:30 ~15:00	4時間	10人	中国・中国語(9人) 韓国・韓国語(1人)	教授者3人 補助者6人	日本語・漢字 学習 数学学習
⑪	8月16日(月) 9:30 ~15:00	4時間	11人	中国・中国語(10人) ブラジル・ポルトガル 語(1人)	教授者3人 補助者5人	日本語・漢字 学習 作文
⑫	8月17日(火) 9:30 ~15:00	4時間	11人	中国・中国語(9人) ブラジル・ポルトガル 語(1人) 韓国・韓国 語(1人)	教授者3人 補助者5人	日本語・漢字 学習 英語学習
⑬	8月18日(水) 9:30 ~15:00	4時間	12人	中国・中国語(10人) ブラジル・ポルトガル 語(1人)・韓国・韓国 語(1人)	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 作文
⑭	8月19日(木) 9:30 ~15:00	4時間	9人	中国・中国語(8人) ブラジル・ポルトガル 語(1人)	教授者3人 補助者4人	日本語・漢字 学習 英語学習
⑮	8月20日(金) 9:30 ~15:00	4時間	9人	中国・中国語(8人) ブラジル・ポルトガル 語(1人)	教授者2人 補助者4人	日本語・漢字 学習 数学学習

⑨ 特徴的な授業風景

クラス2 (読解) 読み物 L27 「忍者」 学習者5名

・面白がって読む。Bくん、内容に関連したパフォーマンスを見せる。

・5分で読みと回答を指示。(訳を渡したが、あまり見ていない)

⇒ 音読させつつ精読。

質問の記述回答は、中国人学生は文中に下線をひくことで済ませるが、文として書くように指示。

・精読では、構造を意識させるための品詞名を出し、とり上げた文で品詞を区別する練習。ゲーム形式で。「きれい」の品詞でひっかかる。

動詞、名詞、助詞、形容詞、形容動詞

い形容詞・な形容詞 を言い換えて練習。

・名詞修飾を分解

例) 水をまいたふすまの上を歩く。

未知語なので、どこで切れるかがわからない。音読がへんになるのでわかる。

まず助詞にマーク付け。

残った部分「まいたふすま」が何か分からない。助詞「を」の後には動詞が来ることを知らせる。どこまでが動詞か考える。

⇒ さまざまな答え まいたふ、まいたふすま

次に次文を見る。ふすまを破らないように歩く。

ふすまが名詞であることを発見。全員納得。では「まいた」は何か。

日本語教育では、辞書形、ます形からた形を導くことはあっても、た形から辞書形を導くことはない。ーいた⇒ く に特定できるが、ーった⇒ う、つ、る であって特定できない。言わせると耳で大体はわかっているものの、間違いも多い。＊これは解決すべき課題である。

た形→辞書形の変換ドリル作成。宿題にした。

以上のことから、

動詞の形の問題。および名詞修飾の意味のとりかたが課題であることがわかった。

名詞修飾文を作って遊ぶ。

例) 私は お弁当 を タクシーに忘れた。(ソンさんの実話)

どんなお弁当かをいろいろ作る練習。いろいろ作って各品詞がつながることをみんな実感。

・文末から主語を探る。

文末の動作主(主語と言い換えた)は何かを考える。

⇒日本語ではよく隠れていることも示唆。

・接続詞 それで ⇒ でも、しかし、ところが を紹介し、文づくり。

・広げられるきっかけがあれば、そこを利用して日本事情につなぐ。

～県から 都道府県 本州、四国など 必ず暗記と指示。翌日確認。

回転 回転ずし

訓練 修練(Bくんから質問)との違い。

カタカナ語では「トレーニング」を紹介。授業中に何回も出す。

全員集中は切れなかった。

＊次ページに写真を添付する。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
劉 翔宇	中国語(中国)	1年	2回	授業補助, 通訳

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
大森 昭輝	歯科医	なし	1回	放課後の野球見物提供

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況、

来日直後で日本語がゼロに近いクラス1、学校に所属しているが日本語力の不足により学習についていけないレベルのクラス2、クラス2よりは日常の日本語にはなじんでいるものの学習の日本語においては不十分なレベルのクラス3、計3クラスを設置した。

日本語力の中には漢字語彙の力が含まれる。漢字語彙は、単なる文字の勉強ではなく、語彙を増やし、読解力の助けになる。その意味で、漢字教育は重要である。そのため各クラスで、カリキュラムの中に漢字学習を入れている。今年度クラス2には、非漢字圏の生徒が2名いたため、漢字学習時には補助者を入れて漢字圏と非漢字圏(ブラジル、韓国)の2つのグループに分けて行った。これにより、それぞれの方法で漢字語彙を学ぶことができた。学習者にとって、漢字の学び方を体得できたことは自律学習に役立つと考えられる。

クラス1においては、日常会話ができるレベルを目指し、そこに、読解や表記、作文のトレーニングを多く入れて、学校の授業についていけるように配慮した。目指したレベルまで、全員楽しく学び、達成できた。日常会話がゼロに近かった生徒が、ある程度のかいわができるようになった。また話題に関係づけて日本事情も導入したので、日本で生活する上で必要な知識も覚えた。

クラス2の学習者は、生活日本語はなんとか話せるが、まとまった文で話したり、学校の教科書レベルの音読、内容理解ができないレベルであった。また、表記のルールも十分ではなく、話せても書けない状況がテスト等の評価を下げていることも起こっていた。表記のルールがあることを知って、そこに注意して書こうという意欲が現れ、ミスが減っていった。読解授業で、文の構成を分析し、読む方法を教えると集中して取り組んだ。また、科目に出てくる漢字の練習もした。これらのことから、集中して多大に取り組む力がついてきたように思われる。日本語を学ぶ中で、勉強に取り組む姿勢を学べたことは大きな成果である。

クラス3は日常会話はかなりの程度できるものの、日本語における書き言葉の領域、ま

たある程度長い、複雑な構文の文章に対して、とっかかりを失っている学習者がみられた。文の構成を分析し、中級文法を理解することで、文章に対するアレルギーが減っていった。また、日常会話がぞんざいになりがちな場面もよく見受けられたが、丁寧なものの言い方を意識させた結果、必要な場面では使えるようになっていった。

ゼロ初級のクラスでは、日常会話が話せ学校に入ってもやって行けそうな自信がついた。また、他のクラスでは、日本語の構造を理解して学ぶことにより、どんな科目においても介在する日本語の部分に、はじめからあきらめるのではなく自分から取り組んでいこうという意欲が出てきたと思える。

午後の科目学習時には、日本語のレベルではなく科目のレベルで分け、3～4のグループで行った。生徒の科目における能力と日本語能力は一致しない。日本語がまだ十分ではない学習者も、数学や英文の問題など、低いレベルの日本語で解ける問題もある。そのことから、午後の科目授業は、補助者を多くつけ寺子屋方式で行った。

英語では、英文和訳が問題になる。日本語力がないと、意味がわかっていても和訳できない。しかし、日本語で習った文法・語彙のみで訳す練習を行ったところ、和訳のこつがのみこめ、性格な語順でやさしい日本語に訳すことができるようになった。

数学では、数学で主に使われる用語を学びつつ、問題を解く練習をした。用語と問題指示の言葉がわかればある程度解けるようになっていった。

作文では、習った文法を使って自分の言いたいことを文にまとめる練習を行った。優しい日本語でも自分の言いたいことが書き表せるという自信がついてきた。

今回の講座はわずか3週間（15日間）なので、日本語以外の科目の力が飛躍的に上昇したとはいえない。しかし、学習の方法を知り、学習が面白いという感覚を学習者が持ち、その結果、彼らの自立学習のきっかけを作れたといえる。

以上のことから、当初設定した学習目標はかなり達成されたといえる。

② 学習者の習得状況

学習者は出席率もよく、学校の行事、また家庭の事情（兄弟の子守）以外は欠席しなかった。毎日の勉強が楽しいといった様子うかがえた。楽しさの中には、わかる勉強ができるということ、また、仲間ができたということがあげられる。

学習面では、学習習慣のついている生徒ばかりではなかった。当初の学習者たちの大きな特徴は、学習というものに無関心、無反応なことであった。学校で毎日長時間、わからないことば、内容を聞かされて感性を封じ込めている様が伺えた。しかし、今まで知らなかったこと、例を挙げると「表記のルール」があることを知った時、そこに注意して書こうという意欲が現れた。また解る日本語で授業が進むことから、反応がはじまり、積極的に参加し、発言を始めた。その変化には驚かされた。読解授業で、文の構成を分析し、読む方法を教えると集中して取り組んだ。科目に出てくる漢字の練習もしたが、普段学校では宿題をしていないという学習者が、漢字を覚える宿題をやってきて、成果を示したがつた。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

今回参加した 12 人は、日本語ができない、また、日常会話はできるが学習の日本語にはついていけない外国人生徒達である。学校に所属している生徒にとって、そこが居場所にならずただ忍耐の場所になっている状況は、学習意欲もわかず、せっかく日本へきてもその能力を生かすチャンスが与えられない。これは、その生徒にとっても、また日本社会にとっても不幸なことである。この 15 日間で、生徒は確実に変化した。表情は明るくなり、学習への意欲を示しだした。学習のおもしろさを感じたことは大きな成果である。

また、このコースを始める前と終了後に、同じ問題で日本語のプレテスト（初級, 中級, 上級 12 人中 11 人が受験）とポストテスト（初級, 中級, 上級 12 人中 8 人が受験）を行った。その結果はほとんどの生徒がポストテストで点数が上がっている。（別紙テスト結果参照）日本語の力もアップしたことが伺える。この日本語力のアップが、学校のテストにすぐに反映されるかどうかはさておき、本人達に勉強への意欲を植え付けたことは確実にある。

この結果は、このようなタイプの日本語教室に大きなニーズと役割があることをはっきり示しているといえるだろう。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

今回の日本語教室への問い合わせ、申し込みも昨年度と同様、大半は外国人生徒の所属学校の教員が多文化共生サポーターとして外国人生徒を直接支援・指導している方々、国際交流協会や外国人インフォメーションセンターなどで外国人に接し、情報提供などを担当している方などからであった。もちろん外国人生徒の保護者からのものも含まれるが、割合は少なかった。これは兵庫県日本語ネットワークの実務者会議等で、準備や進行状況を報告・協議してさまざまな協力が得られたことも意義があったと考える。また子ども多文化共生センターの協力で同 HP に受講生募集チラシがアップされたことも募集には効果があった。

このような形で、地域が外国人生徒について心配りをしている。多くの外国人生徒がこれらのネットワークによって支援を受けられている状況を改めて認識した。しかし、実際の効果的な教科につながる日本語教育ができる場はまだまだ少ない。

⑤ 改善点、今後の課題について（具体的に記述する。）

a. 現状

昨年度の経験をふまえ、改善した点がいくつかある。教科学習を日本語学習のクラスとは別のグループにした。このことによってより個人のレベルに合った教科学習の充実がはかれた。漢字の時間は、非漢字圏と漢字圏が同じクラスにいたので、寺子屋式に教師を一人増やして対応した。これは効果があった。

第 2 レベルのクラスのテキストは、通常の初級日本語のテキストではなく、読解文をテキストとして使用した。段落のある文章を読みながら、使用されている文型を理解し、運用する形の授業の形にした。これは、学校で即、国語の読解や、その他教科の日本語を読

み解くのに役立つ方法であろう。

うまくいかなかった教材の反省もある。漢字教育のテキストを、発売されたばかりの中高生に必要な漢字をピックアップしたものを使用したが、あまり有効ではなかった。それはその本にはやはり日本語教育からの視点が欠けていたからだと思われる。

数学、英語などの教科学習については、教師から与えた問題を解かせるかたわら、夏休みの宿題を一緒にみるなど、希望を取り入れて学習するように柔軟に対処した。

b. 今後の課題

学校に入るための子どもたちの支援を始めてから 3 年目になるが、課題はやはり、日本語教育と学校での日本語をいかにうまくつなげるか、ということである。効果的な学習のためには、日本語教育からの視点が欠かせない。しかし、学校に入るため、あるいは学校に所属している生徒たちは、日々教科の学習が入ってくるので、日本語のみに割ける時間は多くない。ゴールを教科学習の日本語に据えて、日本語教育の視点からどのようにそこに到達させていくか。この点においてさまざまな工夫を積み重ねてきたが、まだまだ工夫の余地はある。今後さらに努力を続けていきたい。

自律学習の習慣づけも課題の一つである。YWCA のコースはわずか 3 週間に過ぎない。これが終わると元の環境に戻っていくわけで、3 週間の授業によって自律学習の意識ができそれが習慣につながるようもっていききたい。

c. 今後の活動予定、展望

神戸 YWCA では、この講座の終了後、「はっぴい・すくーる神戸 Y」と名づけた居場所作りを進めている。これは、このコースで仲良くなった外国人生徒たちが、ともに集い母国語でおしゃべりをし、近況を報告しあうことで、神戸 YWCA を彼らの居場所とすることができるといものである。担当した教師たちもそこに集い、学校で生じた問題について、アドバイスのできるようにした。

さらに、すでにこのコースを昨年終了した学生で、高校に入って勉強している生徒が数人いる。その生徒たちとも共に交わり、進学や学習方法のアドバイスをしてもらうような関係作りを考えている。そして将来は、このコース修了生ばかりでなく、同じ境遇にある外国人生徒も参加できるような形にしていきたい。

この構想の中心はやはり、日本語のノウハウ作りである。神戸 YWCA が指導のノウハウを積み重ね、学校で必要とされる日本語にいたる効果的な指導法を作り上げ、地域に役立てたいと考えている。

⑥ その他参考資料

次ページにアンケートの集計を添付する。

アンケートの対象者は学習者 12 人中 8 名である。(中国人 7 人、ブラジル人 1 人)

こ う べ

神戸YWCA アンケート

学校に入るための日本語

ばんごう まる
番号に 丸を つけてください。

2010. 8. 20

	ぜんぜん楽しく なかった	あまり楽しく なかった	ふつう	楽しかっ た	とても楽しかった
このコースは楽しかったですか。			1	4	3
	ぜんぜんわからな かった	あまりわから なかった	ふつう	わかった	とてもよく わかった
日本語クラスは、よくわかりましたか。			2	5	1
	ぜんぜん わからなかった	あまりわから なかった	ふつう	わかった	とてもよく わかった
数学の勉強は、よくわかりましたか？	1	1	1	3	2
	ぜんぜん わからなかった	あまりわから なかった	ふつう	わかった	とてもよく わかった
英語の勉強は、よくわかりましたか？		1	4	3	
	ぜんぜん楽しく なかった	あまり楽しく なかった	ふつう	楽しかっ た	とても楽しかった
作文の勉強は、どうでしたか。			2	3	3
	とても短かった		ちょうどいい		とても長かった
勉強時間（9：00～15：00）は、ど うでしたか。			5		3
	とても短かった		ちょうどいい		とても長かった
15日間は どうでしたか。	2		5		3
	勉強したくない		わからない		もっと勉強したい
もっと日本語を勉強したいですか。			2		6

(別紙)

プレテスト／ポストテスト結果

	プレテスト結果			ポストテスト結果			備考
	初級	中級	上級	初級	中級	上級	
A	67	57	50	100	59	53	
B	33	29	0	100	29	53	
C	33	0	0	67	57	0	
D	0	0	0	33	0	0	
E	67	57	0	欠席	欠席	欠席	
F	0	0	0	30	80	0	
G	87	29	55	欠席	欠席	欠席	
H	0	0	0	33	71	0	
I	33	0	0	67	43	0	
J	33	0	0	53	43	0	
K	0	0	0	欠席	欠席	欠席	
L	—	—	—	—	—	—	受験せず